

授業科目 NO. 415 在宅看護学方法論Ⅱ (看護援助演習)

Home Care Nursing II (Nursing Care Seminar)

授業の形態： 演習

単位数(時間数)： 1単位(30時間)

開講年次・学期： 3年次・前期

必修・選択の別： 必修

キーワード： 看護過程、日常生活援助技術、医療処置技術、在宅ケアシステム

1 金沢医科大学看護学部の到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標 (GIO)

地域で生活する疾病や障害を持つ人及び虚弱者とその家族のニーズや生活習慣、価値観、地域の特徴、文化を踏まえた看護過程を展開し、対象者の在宅生活を整えるために必要な日常生活援助技術、医療処置技術、在宅ケアシステムについて学修する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

(1) 対象者のニーズや生活習慣、価値観、地域の特徴、文化を踏まえた看護過程を展開できる。

(①②③)

①地域で生活する疾病や障害を持つ人及び虚弱者とその家族を対象とした看護過程展開の特徴を説明できる。(①②③)

②紙上事例をもとに、生活者としての特性を踏まえたアセスメント、看護上の問題の明確化、目標設定、計画立案が具体的にできる。(①②)

③模擬在宅療養者・家族(モデル人形も含む)を対象に対象者の在宅生活を整えるために必要な日常生活援助技術、医療処置技術を実施できる。(②)

④模擬在宅療養者・家族(モデル人形も含む)を対象に、介護予防やセルフマネジメントを目的とした生活指導を実践できる。(②)

(2) 対象者の在宅生活を整えるために必要なフォーマル・インフォーマルな社会資源の実際について紙上事例を通して列挙し図示できる(在宅ケアシステム図)。また、紙上事例のケアプラン立案を通して、制度・サービスの活用方法を説明できる。(②③)

- (3) 対象者を取り巻く在宅ケアシステムが構築され、機能するために、多職種と適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、模擬サービス担当者会議にて各職種の役割を実践することができる。(②③)
- (4) 模擬サービス担当者会議を通して、対象者を取り巻く関係機関の連携の実際について考察できる。(②③)

3 学習内容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	40%
実習成績	%
レポート	60%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者 : 蘭 直美

教 授 前田 修子 (在宅看護学)
 准 教 授 蘭 直美 (在宅看護学)
 講 師 福田 守良 (在宅看護学)
 助 手 伊藤 真夕 (在宅看護学)

6 教育担当者の実務経験

科目責任者(蘭直美)は、医療機関・介護老人保健施設・訪問看護ステーション看護師として、医療ニーズの高い在宅療養者への豊富な看護実践、多職種連携、ならびに管理者として訪問看護ステーションの管理運営経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

教育担当者(前田修子)は、医療機関看護師・市町村保健師・訪問看護ステーション看護師として、地域に暮らす人々の特性アセスメント、介護保険や医療保険その他社会資源の調整、地域づくり、介護予防、多職種連携、看護実践に取り組んだ経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

教育担当者(福田守良)は、医療機関・介護老人保健施設の看護師として、多様な疾患や障害を有する高齢者への看護実践経験、医療機関・施設・在宅への移行支援、介護職と連携に取り組んだ実践経験を有する。

教育担当者(伊藤真夕)は、医療機関・訪問看護ステーション看護師として、医療ニーズの高い

在宅療養者への豊富な看護実践と多職種連携の経験を有する。

7 教科書

在宅看護概論で使用した教科書

8 推薦参考書

下記以外については、必要時、授業中に紹介します。

秋葉キミ子、玉木ミヨ子、村中陽子、江崎フミ子著：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践第4版、ヌーベルヒロカワ、2013

9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前・事後学習として計180分程度必要です。

- 1) 電子シラバスに、事前・事後に必要なレポートが掲載してあります。
- 2) 各授業の資料に、教科書の該当ページを記載してあります。事前・事後学習に活用ください。
- 3) 各授業の資料に、該当授業内容に関連した行動目標を記載してあります。授業後に到達できるように、事後学習に活用ください。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) レポート課題については、講義の中で取り上げ解説を行います。
- 2) 試験に関しては、試験後に解答例を提示し、フィードバックを行います。

11 履修上の注意事項

- 1) 配布資料はファイルし、毎回持参してください。
- 2) 提出期限の過ぎたレポートは原則受け取りません。電子シラバスによる提出の場合は、機器トラブルに備えて早めに提出してください。
- 3) 実習室やCSCでは、大学指定のポロシャツ、ジャージズボン、ナースシューズを着用し、身だしなみは病院実習に準じてください。

12 オフィスアワー等

質問は随時受け付けますが、事前にメール等で連絡してください。

前田：mshuko@kanazawa-med.ac.jp

蘭：ran@kanazawa-med.ac.jp

福田：m-fukuda@kanazawa-med.ac.jp

伊藤：m-itou@kanazawa-med.ac.jp

第3学年

在宅看護学方法論Ⅱ

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	演習レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
前	1	4月4日(木)	1	講義	ガイダンス、在宅で療養する事例の看護過程演習(がん、ストーマが必要な事例)	演習レポート(10点)	在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手
前	2	4月4日(木)	2	講義・演習	医療処置技術 在宅酸素療法、人工呼吸器管理		在宅看護学	福田講師, 蘭准教授, 前田教授, 伊藤助手
前	3	4月11日(木)	1	講義・演習	看護過程演習(あらゆる排泄経路から排泄する アセスメント)	演習レポート(10点)	在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手
前	4	4月11日(木)	2	講義・演習	医療処置技術 内服自己管理 インスリン自己注射		在宅看護学	福田講師, 伊藤助手
前	5	4月18日(木)	1	演習	医療処置技術 吸引/医療処置技術 ストーマケア	吸引演習レポート(5点)	在宅看護学	福田講師, 前田教授/蘭准教授, 伊藤助手
前	6	4月18日(木)	2	演習	医療処置技術 ストーマケア/医療処置技術 吸引	ストーマ演習レポート(5点)	在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手/福田講師, 前田教授
前	7	4月25日(木)	1	講義・演習	医療処置技術 胃瘻		在宅看護学	福田講師, 伊藤助手
前	8	4月25日(木)	2	講義・演習	医療処置技術 中心静脈栄養法		在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手
前	9	5月2日(木)	1	講義・演習	医療処置技術 中心静脈栄養法/医療処置技術 尿道留置カテーテル管理(自己導尿含む)	中心静脈栄養法演習レポート(5点)	在宅看護学	蘭准教授/前田教授, 福田講師, 伊藤助手
前	10	5月2日(木)	2	講義・演習	医療処置技術 尿道留置カテーテル管理(自己導尿含む)/医療処置技術 中心静脈栄養法	尿道留置カテーテル管理演習レポート(5点)	在宅看護学	前田教授, 福田講師, 伊藤助手/蘭准教授
前	11	5月9日(木)	1	講義・演習	在宅における褥瘡予防 生活指導		在宅看護学	福田講師, 伊藤助手
前	12	5月9日(木)	2	講義・演習	看護過程演習(適切に飲食する アセスメント)	演習レポート(10点)	在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手
前	13	5月16日(木)	1	講義・演習	在宅ケアシステム 看護過程演習事例のケアプラン立案	演習レポート(5点)	在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手
前	14	5月16日(木)	2	講義・演習	在宅ケアシステム 関係機関の連携の実際 サービス担当者会議	演習レポート(5点)	在宅看護学	福田講師, 伊藤助手
前	15	5月23日(木)	2	講義・演習	まとめ、質疑応答		在宅看護学	蘭准教授, 伊藤助手